

ベトナム現地情報（2021.07.07）

ジャパン証券 北山亨

第8回「無印良品、ハノイに第1号店オープン」

無印良品を展開する良品計画がハノイ第1号店を7月3日にオープンさせた。同社は先駆けて昨年11月にホーチミンにベトナム第1号店を出店。ホーチミンに行ったら無印の商品を買ってくるのが定番になるなど日本人コミュニティの中で話題となっていた。

出店先はビンコムセンター

今回、同社が出店したのはビンコムリテールが手掛けるショッピングセンターの一つ「ビンコムセンターメトロポリス」だ。ビンコムリテールは同種のショッピングセンターをハノイ市内に11店舗、展開している。また同社は国内最大のコングロマリットであるビンググループの傘下であり、親会社であるビンググループが開発する高級マンションと併設されていることが多く、相乗効果を生んでいる。

無印良品が出店した「メトロポリス」にはユニクロ、丸亀製麺、カプリチョーザなど多くの日系企業が出店おり、その理由として同施設があるバーディン地区には日本大使館を初め、多くの日系企業が集まっていることが考えられる。また併設するビンググループのマンションには多くの日本人が入居しており、無印良品が出店を決めた理由の一つとして挙げられている。

ビンコムセンターメトロポリスに出店する主な企業

3階	カプリチョーザ	CGV（映画館）	Swensen's（アイスクリーム）	Dairy Queen（ケーキ）
2階	丸亀製麺	ロッテリア	SAN FU LOU（中華料理）	Dozo Sushi（寿司）
1階	ユニクロ	無印良品	スターバックス	ナイキ
B1階	ユニクロ	無印良品	ビンマート	クロックス

ちなみに無印良品は2店舗、ユニクロは8店舗、丸亀製麺は13店舗、カプリチョーザは4店舗がベトナムに出店している。



バーディン地区の周辺には三菱地所が開発を手掛けたキャピタルプレイスや韓国資本のロッテタワーなど高層オフィスビルが並び立つ。ビンコムメトロポリスは右手のビル。

ハノイ一号店の影響力

開店初日はショッピングモールの内外にたくさんの警備員が配置され、張り詰めた空気だった。入店前にはしっかりとアルコール消毒や検温チェックが行われ、オンラインの医療申告も求められた。開店前から並んでいる客は日本人が多く、列はモールの出口まで及んだ。普段はそれほど混雑していないが、ハノイ一号店のインパクトは大きかったようで、他のフロアにも人がなだれ込んでいた。



入店前に医療申告をする

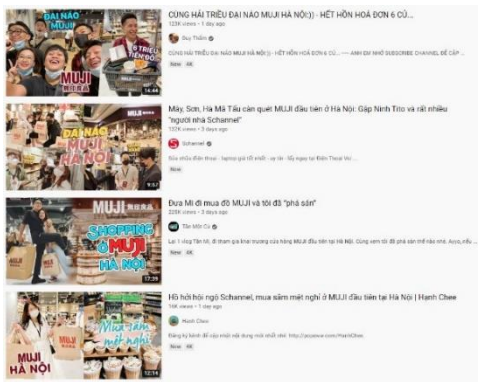


カフェも併設されている

また無印良品で印象を受けたのはその価格だ。例えば、日本で税込 290 円のチョコマシュマロが約 4 割増しの 79,000 ドン（約 395 円）で売られていたが、日本から輸入したお菓子などが 2~3 倍で売られているベトナムでは良心的な価格設定となっている。

オープン当日には YouTuber らしき若者もせっせと動画を撮影しており、ハノイに誕生した新たな流行を発信していた。ベトナムでは新しい流行に敏感な若者が多く、過去には ZARA やユニクロのオープン時に Facebook などの SNS やネットニュースで聞きつけた多くの若者が参加したという。

ベトナムは平均年齢が約 31 歳と若い。さらに所得の増加も相まって、その消費者層を取り込もうと日本企業のみならず、海外の企業も進出する。無印に押し寄せた長蛇の列は、まさに膨らむ消費需要の表れであり、成長著しいベトナム経済の勢いを表すものであった。



YouTube にアップされた動画。3 日で 20 万再生も



無印良品の公式 Facebook

ディスクレーマー

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。